「シルクロードと月氏・匈奴・柔然」

Purevsuren DELGERJARGAL（モンゴル国立大学科学学部人文系列歴史学科教授）

内陸アジアの遊牧民の発展に対する中国文化の影響を研究者たちは重視・研究してきた。一方，内陸アジアの遊牧民は古代よりインド・ヨーロッパ語族と接触し，この関係はユーラシアの歴史において重要な役割を果たしていた。モンゴル高原の遊牧民と西側諸国を結ぶ主要な架け橋は国際交易路（後にシルクロードと呼ばれる）であった。シルクロードはいつ起こったのか?

多くの研究者は，漢の武帝の時代に甘粛回廊を匈奴から奪取し，漢が西域諸国と直接国境を接したことによりシルクロードが成立したと見る。しかしユーラシア古代文化交流は，インド・ヨーロッパ語族の移動（移住）と密接に関係しており，非常に古い歴史を持っている。インド・ヨーロッパ諸国とインド・イラン諸国の拡大と文化の広がりは，国際交易と交流を生み出した可能性がある。したがって、古代中国を中央アジアと結びつけたユーラシアの国際交易路は，甘粛地方に移住してきた月氏と切っても切れない関係にあるとみてよい。月氏は敦煌と祁連山脈の間に住んでいただけでなく，西域を支配し，国際交易路の形成に重要な役割を果たした。

匈奴の台頭は，ユーラシア地域の勢力分布と均衡に新たな時代の到来をもたらした。タリム盆地（西域），中央アジアに影響力を確立し，シルクロードを支配せんとした匈奴の政策は，月氏との 3 回の大戦を引き起こした。匈奴は，前 208 年の戦いで甘粛回廊を，前 177 年の戦いで西域の支配権を獲得すると，ユーラシアの強力な帝国となった。前 166 年の戦いで，匈奴は中央アジアの大部分を支配し，月氏は西に逃亡した。こうして匈奴はユーラシア国際交易路の重要な拠点を掌握し，シルクロードの発展に重要な役割を果たした。

武帝は匈奴に対する戦術を変更し，西域での影響力を拡大する政策を求め始めた。これを「匈奴の右手切り落とし政策」と言う。こうしてシルクロードの覇権を巡る匈奴と漢の争いが始まった。しかし漢は前 60 年まで西域における匈奴の支配を打ち破ることができなかった。この時期から匈奴と漢の優勢な方が西域を支配するようになった。

後 220 年に漢が滅び，235 年に鮮卑統一政権が分裂すると，政治的不安定が蔓延した。こうしてシルクロードの治安体制は崩壊し，国際交易崩壊の時代が始まった。当時、すなわち 5 世紀初頭，柔然がトゥルファン盆地とタリム盆地での支配を確立し，国際交易路の発展において重要な役割を果たしていた。

1997 年にトゥルファンで発見された「送使文書」は，柔然が，トゥルファンに本拠を置く高昌王国を通じてタリム盆地や北インド諸国と広範な接触を持っていたことを証明している。高昌からバルクル（巴里坤）を経て，天山東部のボグド山を越えて柔然国に至る道は，使臣の関係だけでなく，シルクロードの北支線の重要路であった。漢文史料に「回鶻路」と記されていたことからウイグル路と名付けられたこの支線は，もともと柔然時代の道であった。シルクロードのこの支線を「草原のシルクロード」と呼ぶことができるのである。